

ApsaraDB for RDS

クイックスタート (MySQL)

クイックスタート (MySQL)

利用制限

ApsaraDB for MySQL の安定性とセキュリティを保証するために、データベースと管理プロパティに対する一定の制限が適用されます。

アイテム	制限事項
パラメータの変更	RDSコンソールまたはAPIを使用してデータベースパラメータを変更する必要がありますが、一部のパラメータを変更することはできません。詳細は、パラメータの設定を参照してください。
ルート権限	ルート権限またはsa権限が提供されていません。
復元とバックアップ	- コマンドラインまたはグラフィカルインタフェースを使用して論理バックアップを実行できます。 - 物理バックアップの場合は、RDSコンソールまたはOPEN APIを使用する必要があります。
移行	- コマンドラインまたはグラフィカルインタフェースを使用して論理インポートを実行できます。 - limysqlコマンドラインツールを使用してデータの移行を実行できます。
レプリケーション	- RDS for MySQLは、マスタ/スレーブMySQLレプリケーションアーキテクチャのデュアルノードクラスタを提供するため、手動でビルドする必要はありません。 - アーキテクチャのスレーブインスタンスはあなたには見えず、アプリケーションはアクセスできませんスレーブインスタンスに直接渡します。

MySQLストレージエンジン	- 現在のところ、InnoDBとTokuDBのみがサポートされています。 - パフォーマンスとセキュリティ要件には、InnoDBストレージエンジンが推奨されます。 - メモリエンジンはサポートされていません。 - MyISAMエンジンに内在する欠陥のため、データが失われる可能性があります。したがって、MyISAMエンジンで生成された新しいインスタンスは、自動的にInnoDBテーブルに変換されます。
RDSインスタンスの再起動	RDSコンソールまたはAPIを使用してインスタンスを再起動する必要があります。
ユーザー、パスワード、データベース管理	既定では、MySQLはRDS管理コンソールを使用して、インスタンスの作成や削除、権限の変更、パスワードの変更などのユーザー、パスワード、データベース管理を実行します。またRDS for MySQLは、より細かい管理コントロール用の特権アカウントの作成もサポートしています。
一般アカウント	- カスタム認証はサポートされていません。 - アカウントとデータベース管理インターフェイスはRDS管理コンソールにあります。 - 一般アカウントで作成されたインスタンスは、管理アカウントを作成できます。
管理アカウント	- カスタム認証がサポートされます。 - アカウントとデータベース管理者インターフェイスはRDS管理コンソールに表示されなくなります。 - アカウントは一般アカウントに戻すことはできません。
ネットワーク設定	MySQL 5.5/5.6 インスタンスがクラシックネットワークにあり、そのアクセスモードがアクセスモードの設定の場合、SNAT モードで net.ipv4.tcp_timestamps を有効にしないでください。

ApsaraDB の概要

クイックスタートの目的

このドキュメントでは、RDSインスタンスの購入から使用までの手順を説明します。また、RDSインスタンスのApsaraDBを作成する基本的な設定と、インスタンスデータベースへの接続方法について詳しく説明します。

ターゲットリーダー

ApsaraDB for RDSインスタンスを初めて購入したユーザー。

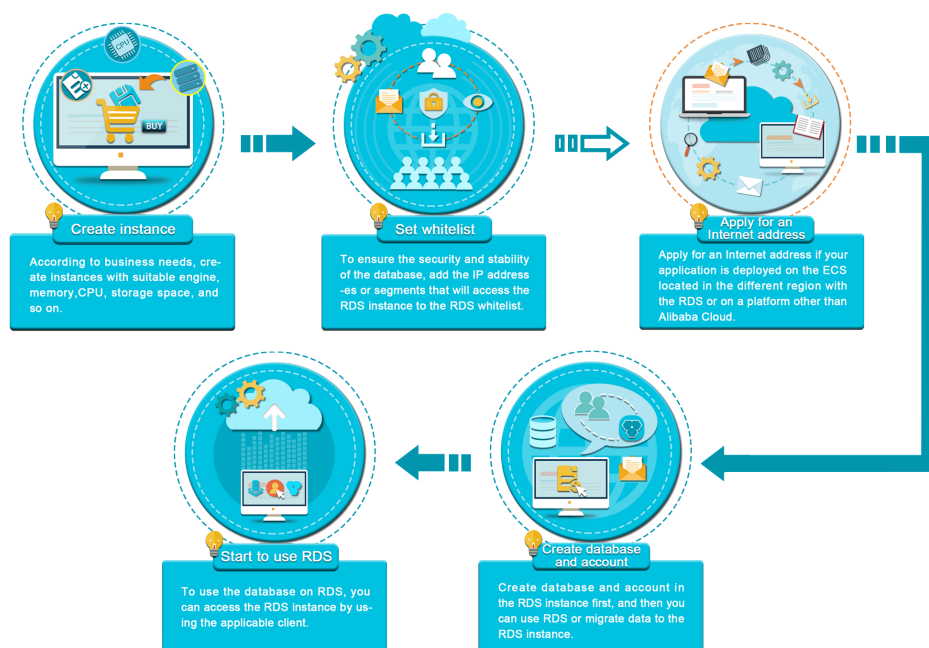
作成したインスタンスの基本設定を実行する必要があるユーザー。

ApsaraDB for RDSインスタンスに接続する方法を知りたいユーザー。

クイックスタートフローチャート

初めてAlibaba Cloud ApsaraDBをRDSに使用する場合は、「ApsaraDB for RDSの制限事項」と「ApsaraDB for RDSコンソール」を参照してください。

次の図は、インスタンスの作成から使用までの手順の説明になります。



インスタンスの作成

ApsaraDB インスタンスを Alibaba Cloud の公式 Web サイトまたは API を経由して購入し有効化できます。

ここではRDSコンソールを使用してインスタンスを作成する方法を説明します。APIを使用して、インスタンスを作成する場合は、RDS インスタンスの作成を参照してください。

前提条件

Alibaba Cloud アカウントが作成されていて、支払い方式が一つ以上登録されていること。

操作手順

リレーショナルデータベースサービス (RDS) プロダクトページにログインします。

[インスタンス]ページの[インスタンスを作成]をクリックします。

[サブスクリプション]または[従量課金]を選択します。料金の詳細については価格詳細を参照ください。

インスタンスの構成を選択します。パラメータの詳細は以下になります:

基本構成

リージョンとゾーン: インスタンスを作成するリージョンとゾーンを選択します。リージョンにより、シングルゾーンかマルチゾーンが異なります。いくつかのリージョンはシングルゾーンのみとなります。

注意:異なるリージョン間で、プロダクトを内部接続することはできません。インスタンス購入後はリージョンを変更することもできません。従って、リージョンの選択は注意して行う必要があります。

データベースエンジン: RDSはMySQL, SQL Server, PostgreSQLをサポートしています。データベースはリージョンごとにサポートされるタイプが異なります。購入時の画面にて、ご確認ください。

バージョン: データベースのバージョンです。現在、RDSはMySQL 5.5/5.6, SQL Server 2008 R2/2012, PostgreSQL 9. をサポートしています。データベースはリージョンごとにサポートされるタイプが異なります。購入時の画面にて、ご確認ください。

MySQLについては、データファイルの圧縮し、コスト圧縮に大きく貢献可能な機能、TokuDBストレージエンジンをサポートしたMySQL 5.6をお勧めいたします。

SQL Server 2008 R2とSQL Server 2012でサポートされる特徴は異なります。詳細な違いについては、SQL Server 2008 R2と2012の機能の違いを参照ください。

Series : RDS インスタンスは、Basic Edition、High Availability Edition、および Finance Edition をサポートします。異なるデータベースバージョンは異なるシリーズをサポートします。このドキュメントの使用中に実際のインターフェイスで確認してください。

ネットワークタイプ: RDSはクラシックネットワークとVPCをサポートしています。VPCは事前に作成する必要があります。もしくは、RDSインスタンスを作成後に、ネットワークタイプを変更することも可能です。詳細はネットワークタイプの設定を参照ください。

タイプ: インスタンスが占有する CPU およびメモリー。接続数と最大 IOPS (読み書き

の場合はそれぞれ測定され、混合読み書きの場合はベンチマークの最大 2 倍) は、タイプによって異なります。詳細については、インスタンスタイプ一覧を参照してください。

ストレージ: データ、システムファイル、バイナリログファイルやトランザクションファイルを含むストレージ容量です。

サブスクリプション日時: サブスクリプションインスタンスの期限を設定します。

数: 同じ設定で購入をするインスタンス数です。

[今すぐ購入] をクリックします。

利用規約と RDS SLA のチェックボックスをオンにしてから：

サブスクリプションの場合、[支払い] をクリックします。

従量課金の場合、[確認] をクリックします。

初期設定

ホワइटリストの設定

ホワइटリストは特定の IP アドレスまたは特定の IP セグメントのアクセスに制限するために使用されます。データベースインスタンスへのアクセスはホワइटリストに設定されていない限りアクセスできません。ユーザの要件に従いデータベースのセキュリティ保護のため、ホワइटリストの定期的なチェックと調整することをお勧めします。本ドキュメントは主にホワइटリストの設定について記載しています。

背景情報

ユーザはデータベースインスタンスにイントラネット、インターネットまたはその両方からアクセスできます。それぞれの接続タイプ(イントラネットやインターネット)の運用シナリオについての詳しい情報は「イントラネットとインターネットアドレスの設定」を参照してください。

接続タイプを設定する前に、アプリケーションサービス、ECS インスタンスの IP アドレスや IP アドレスセグメントをデータベースインスタンスのホワイトリストに追加しておく必要があります。ホワイトリストが設定されたときにシステムは自動でデータベースインスタンスにイントラネットアドレスを付与します。もしインターネットアドレスが必要になった場合は「インターネットアドレスの適用について」を参照してください。

メモ: もしアプリケーションサービスの IP アドレスをホワイトリストに追加したあとにデータベースインスタンスに接続できなくなった場合は「ローカル IP アドレスの確認方法」を参照の上アプリケーションサービスに実 IP アドレスを付与してください。

注意事項

システムはデータベースインスタンス作成後に自動でデフォルトホワイトリストグループを作成します。このデフォルトホワイトリストグループの変更やクリアのみ可能ですが、削除することは出来ません。

インスタンスの新規作成後、ローカルループバック IP アドレス 127.0.0.1 がデフォルトのホワイトリストとして設定されているため、すべての IP アドレスはこのインスタンスへのアクセスを禁止されます。そのため他の IP アドレスや IP セグメントをホワイトリストに追加する前に、最初に 127.0.0.1 をホワイトリストグループから削除する必要があります。

% または 0.0.0.0/0 は、任意の IP アドレスがデータベースにアクセスできることを示します。この設定はデータベースのセキュリティを著しく低下させるため、必要でない限り推奨されません。

操作手順

RDS コンソールにログインします。

ターゲットインスタンスが所属するリージョンを選択します。

ターゲットインスタンスの名前をクリックし**基本情報**ページを開きます。

[セキュリティコントロール] ページで、左ペインの[セキュリティコントロール]を選択します。

[セキュリティコントロール] ページで、デフォルトグループの後にある [変更] をクリックします (下図を参照)。

メモ: データベースインスタンスにカスタムホワイトリストを追加したい場合、最初に

127.0.0.1 を削除するためにデフォルトホワイトリストグループの「クリア」をクリックしてください。次に「ホワイトリストグループを追加」をクリックしてください。カスタムホワイトリストの設定は以下の手順のようになります。



グループ変更ページにてホワイトリストにデータベースインスタンスの IP アドレスまたは IP セグメントを追加します。ECS インスタンスのイントラネット IP アドレスを追加する必要がある場合、下図のように「ECS の IP アドレスをアップロード」をクリックしプロンプトに従い IP アドレスを選択してください。



パラメーターは次のとおりです。

[グループ名]: 2 ~ 32 文字のグループ名を指定します。小文字のアルファベット、数字、

アンダースコアを使用できます。グループ名では、最初の文字には小文字のアルファベットを、最後の文字にはアルファベットか数字を使用する必要があります。デフォルトのグループを変更または削除することはできません。

[ホワイトリスト]: データベースにアクセスできる IP アドレスまたは IP セグメントを入力します。複数の IP アドレスまたは IP セグメントはカンマで区切ります。

10.10.10.0/24、これは、10.10.10.X の形式のすべての IP アドレスがデータベースにアクセスできることを示します。

複数の IP アドレスまたは IP セグメントの場合、192.168.0.1,172.16.213.9.のようにコンマ(空白は含めない)で区切ってください。

- 設定できるホワイトリストの数は、MySQL、PostgreSQL、PPAS の場合は 1,000 個、SQL Server の場合は 800 個です。

- [ECS の IP アドレスをアップロード]: IP アドレスをクリックすると、同じアカウントの ECS が表示されます。ECS を素早くホワイトリストに追加できます。

OKをクリックします。

ホワイトリストグループの変更と削除

ユーザのビジネスルールに従ってホワイトリストを変更したり削除したりできます。詳細な操作手順は以下のようになります。

RDS コンソールにログインします。

ターゲットインスタンスが所属するリージョンを選択します。

ターゲットインスタンスの名前をクリックし基本情報ページを開きます。

[セキュリティコントロール] ページで、左ペインの[セキュリティコントロール]を選択します。

ホワイトリスト**設定**の画面でホワイトリストの**変更**または**クリア**をクリックします。

IP アドレスや IP アドレスセグメントの変更やクリアをしたら**OK**をクリックします。または削除されるホワイトリストを確認したら**確認**ボタンを押します。

接続モードの設定

アプリケーションが同じリージョン内で RDS インスタンスの「接続タイプ」が同一の ECS にデプロイされている場合、インターネットアドレスは必要ありません。もしアプリケーションが異なるリージョン、異なるネットワークタイプや Alibaba Cloud 以外のシステムにデプロイされている場合は、インターネットアドレスを申請して、それをアプリケーションの相互接続に使用する必要があります。

メモ: インスタンスが同一リージョン(ゾーンは異なる)にある場合はイントラネットを通じて相互通信ができます。

背景情報

RDS はインターネットアドレスとイントラネットアドレスで接続することをサポートしています。アクセスモードでアドレス接続の選定を考慮する上で次の特徴があります。

アクセスモード	サポートされる接続アドレス	備考
標準モード	- イントラネットアドレス - インターネットアドレス	- イントラネットアドレスのみ使用: システムはデフォルトでイントラネットアドレスを付与し、ユーザは直接その接続用アドレスを変更することができます。ECS インスタンス上のアプリケーションが RDS インスタンスと同一リージョンに属し同一ネットワークタイプにデプロイされているような状況に当てはまります。 - インターネットアドレスのみ使用: ECS 上のアプリケーションが RDS インスタンスと異なるリージョンに配置されている状況に当てはまります。アプリケーション

		が Alibaba Cloud 以外にデプロイされている場合に当てはまります。 - イントラネットとインターネットを同時に使用: - アプリケーションが ECS インスタンスと同一リージョンに属し RDS インスタンスと同一 ネットワーク タイプを持ち同時に異なるリージョンの ECS インスタンスに配置されている場合に当てはまります。アプリケーションが ECS インスタンスが同一リージョンに属し RDS インスタンスと同一 ネットワーク タイプを持ち同時に Alibaba Cloud 以外のシステムにデプロイされている場合に当てはまります。ベーシックシングルモード版 RDS インスタンスはセーフ接続モードをサポートしていませんが、イントラネットとインターネットの共存はサポートしてます。 - インターネットアドレスの適用方法については次の「操作手順」をご覧ください。
--	--	---

注意事項

データベースにアクセスする前に、データベースアクセス時に使用する IP アドレスまたは IP セグメントをホワイトリストに追加する必要があります。詳しくはホワイトリストの設定を参照してください。

インターネットアドレスのトラフィックに対して料金が発生します。詳細は [RDS 料金ページ](#) にてトラフィック料金をご確認ください。

インターネットアドレスで RDS インスタンスに接続する場合、RDS インスタンスのセキュリティが低下する可能性があります。使用する際には注意してください。また、より高いスループットを得たりセキュリティレベルをさらに上げるためにはアプリケーションを RDS インスタンスが属する同一リージョンに移行することをお勧めします。

操作手順

[RDS コンソール] にログインします。

ターゲットインスタンスが所属するリージョンを選択します。

「**基本情報**」ページにてターゲットインスタンスのIDをクリックします。

「**データベースの接続**」ページの左ペインで「**データベースの接続**」を選択します。

「**インターネットアドレスの取得**」をクリックします。(下図参照)

接続情報		RDS への接続方法	接続モードの切り替え	接続アドレスの変更	インターネットアドレスをリリースする	↑
ネットワークタイプ: VPC (VPC: vpc-6we73m02pw77inneykh3) ⓘ		接続モード: 高セキュリティモード ⓘ				
イントラネットアドレス: rm-e9b4f1b2xjc5j7v.mysql.japan.rds.aliyuncs.com アドレスをコピーする		内部ポート: 3306				
インターネットアドレス: <u>www-e9b4f1b2xjc5j7v.mysql.japan.rds.aliyuncs.com</u> アドレスをコピーする		外部ポート: 3306				

表示される確認インターフェイスで [OK] をクリックしてインターネットアドレスを生成します。

「**接続アドレスの変更**」をクリックし、表示されるウィンドウでイントラネットとインターネットの接続アドレスおよびポート番号を設定して、[OK] をクリックします。(下図参照)

接続アドレスの変更

接続タイプ:

接続アドレス: .mysql.japan.rds.aliyuncs.com

アルファベットと数字で構成され、最初の文字には小文字のアルファベットを使用します。長さの範囲は8～64文字です。

ポート:

ポート番号の範囲: 3200～3999

OK キャンセル

接続タイプ: 変更する接続タイプに応じて、[イントラネットアドレス] または [インターネットアドレス] を選択します。

接続アドレス: アドレス形式は、xxx.mysql.rds.aliyuncs.com です。xxx は、8～64文字 (アルファベットと数字のみサポート) のユーザー定義フィールドです。先頭の文字は小文字のアルファベットである必要があります (例: extranet4example)。

ポート: RDS が外部サービスを提供するポートの番号を指定します。3,200～3,999の整数を指定できます。

インスタンス基本設定

データベースとアカウントの作成 (MySQL 5.5/5.6)

注意: この文書は、MySQL 5.5、5.6及び5.7高可用性版にのみ適用されます。

RDSを使用する前に、RDSインスタンスにデータベースとアカウントを作成する必要があります。MySQL

5.5、5.6及び5.7高可用性版の場合、このドキュメントでは、RDSコンソールを使用してデータベースとアカウントの作成および管理の詳細手順を説明します。

注意

同一インスタンス内のデータベースは、このインスタンスのすべてのリソースを共有します。MySQL 5.5/5.6 インスタンスは最大 500 個のデータベースと 500 個のアカウントをサポートしています。

ローカルデータベースを RDS に移行する際は、RDS データベースとローカルデータベースで一致する移行アカウントとデータベースを使用してください。

データベースアカウントの権限を割り当てる際は、最小権限の原則とサービス規則に従ってアカウントを作成し、読み取り専用および読み取り/書き込み権限を合理的に割り当てます。必要に応じて、データベースアカウントとデータベースをさらに小さく分割して、各アカウントが自身のサービスに関するデータのみアクセスできるようにします。データをデータベースに書き込む必要がない場合、参照権限のみを割り当ててください。

データベースアカウントに強力なパスワードを使用して、パスワードを定期的に変更してください。

手順

1. [RDS コンソール] にログインし、対象のインスタンスを選択します。

メニューの [アカウント管理] を選択し、[アカウント作成] をクリックします (下図を参照)。



作成するアカウントの情報を入力し、[OK] をクリックします (下図を参照)。

アカウント管理

アカウント一覧 特権アカウント

アカウントを作成する [アカウント管理に戻る](#)

データベースアカウント: ①

小文字のアルファベット、数字、アンダースコアで構成され、先頭にアルファベットを使用し、末尾にアルファベットまたは数字を使用します。使用できる文字数は最大 16 文字です。

許可済みデータベース: 未許可のデータベース 許可済みデータベース 権限 [すべて設定](#) [読み取り/書き込み](#)

user4example 許可 > < 削除

一時的にデータが存在しません

*パスワード: ②

長さは 8 ~ 32 文字で、大文字、小文字、数字、特殊記号の三種類以上が必要です。特殊記号には下記が含まれます: @#\$%^&* (_+-=)!

*パスワードの確認: ③

備考:

補足を入力してください。入力できる文字数は最大 256 文字です (漢字 1 文字は 3 文字に相当します)。

データベースアカウント: 2 ~ 16 文字のアカウントを指定します (小文字のアルファベット、数字、アンダースコアを使用できます)。最初の文字にはアルファベットを、最後の文字にはアルファベットか数字を使用する必要があります (例: *user4example*)。

許可済みデータベース: このアカウントの権限付与済みデータベースを指定します。左側の [未許可のデータベース] を選択し、[許可] をクリックして、[許可済みデータベース] にデータベースを追加します。まだデータベースを作成していない場合は空白のままでかまいません。[許可済みデータベース] の右上にある権限設定ボタンをクリックすると、このアカウントのデータベースの権限をまとめて設定することができます ([すべて設定](#) [読み取り/書き込み](#) または [すべて設定 読み取り専用](#))。

パスワード: このアカウントのパスワードを指定します。パスワードは 6 ~ 32 文字で、アルファベット、数字、ハイフン、アンダースコアを使用できます (例: *password4example*)。

パスワードの確認: 正しく入力されていることを確認するためにパスワードをもう一度入力します (例: *password4example*)。

備考: 今後のアカウント管理のために、このアカウントの関連情報を追加することができます。入力できる文字数は最大 256 文字です (漢字 1 文字は 3 文字に相当します)。

メニューで [データベース管理] を選択し、[データベースを作成] をクリックします (下図を参照)。



作成するデータベースの情報を入力し、[OK] をクリックします (下図を参照)。

The screenshot shows the 'データベースを作成する' (Create Database) form. The form has the following elements:

- *データベース (DB) 名:** A text input field with a red box and callout 1. Below it is a note: '小文字のアルファベット、数字、アンダースコア、取り消し線で構成され、先頭にアルファベットを使用| アルファベットまたは数字を使用します。使用できる文字数は最大 64 文字です。'
- *サポートされる文字コード:** Radio buttons for utf8 (selected), gbk, latin1, and utf8mb4. A red box and callout 2 are around this section.
- 許可されたアカウント:** A list box showing '現在許可されているアカウント:user4example' and 'user4example' (selected). A red box and callout 3 are around this section. Below the list is a link 'アカウントを作成する'.
- アカウントタイプ:** Radio buttons for '読み取り/書き込み' (selected) and '読み取り専用'. A red box and callout 4 are around this section.
- 補足:** A large text area for additional information.
- Buttons: 'OK' and 'キャンセル'.

At the bottom, there is a note: '補足を入力してください。入力できる文字数は最大 256 文字です (漢字 1 文字は 3 文字に相当します)'.

データベース (DB) 名: 2 ~ 64 文字を指定します (小文字のアルファベット、数字、アンダースコア、ハイフンを使用できます)。最初の文字にはアルファベットを、最後の文字にはアルファベットか数字を使用する必要があります (例: *dbname4example*)。

サポートされる文字コード: データベースに utf8、gbk、latin1、utf8mb4 の文字セットが設定できます。

許可されたアカウント: このデータベースが権限を付与するアカウントを選択します。まだアカウントを作成していない場合は空白のままでかまいません。

アカウントタイプ: このオプションは、**[許可されたアカウント]** でアカウントを選択すると表示されます。このデータベースが付与する権限を **[許可されたアカウント]** のアカウントに設定します (**読み取り/書き込み** または **読み取り専用**)。

補足: 今後のデータベース管理のために、このデータベースの関連情報を追加することができます。入力できる文字数は最大 256 文字です (漢字 1 文字は 3 文字に相当します)。

特権アカウントの作成

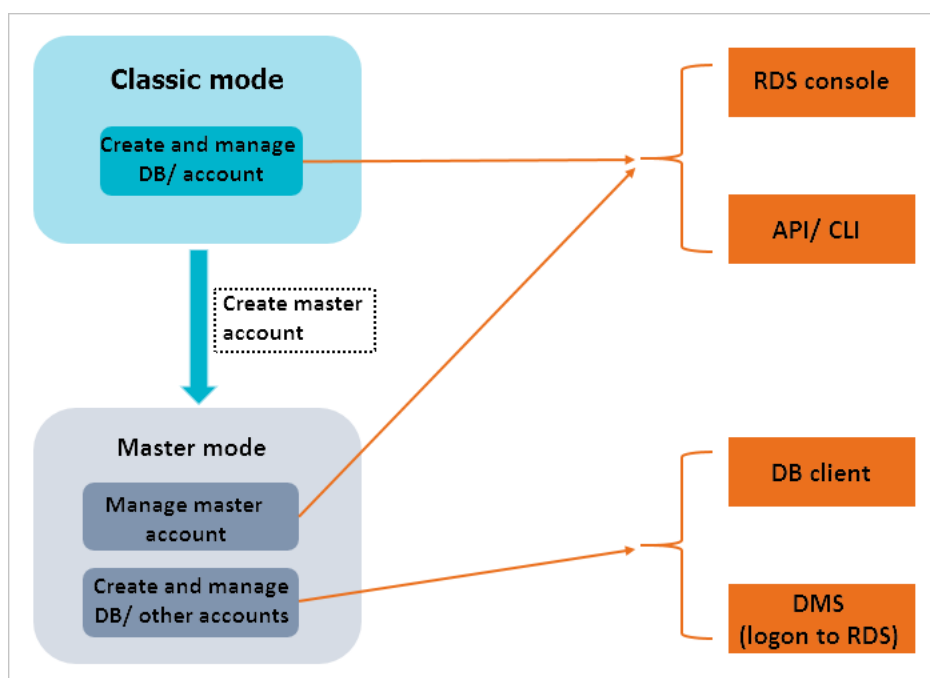
RDSはクラシックモードとマスターモードをサポートしています。MySQL 5.7 High-availability Edition、MySQL 5.5 / 5.6のインスタンスでは、アカウント管理モードをクラシックからマスターにアップグレードするためのマスターアカウントを作成できます。クラシックモードと比較して、マスターモードでは、パーソナライズされた洗練された権限管理のニーズを満たすために、より多くの権限が有効になります。SQLを使用してデータベースとアカウントを直接管理することもできます。したがって、マスターモードを使用することをお勧めします。

このドキュメントでは、アカウント管理モードをアップグレードする方法、つまりMySQL 5.5 / 5.6 / 5.7 のマスターアカウントを作成する方法について説明します。クラシックモードとマスターモードのアカウントの使用方法、サポートされているエンジン、機能、および権限の詳細については、アカウントの作成を参照してください。

バックグラウンド情報

マスターインスタンス用のマスターアカウントが作成されると、読み取り専用インスタンスと災害許容インスタンスに同期されます。マスターモードでは、RDSコンソールまたはAPIを使用してデータベースと共通アカウントを管理することはできません。相対操作を実行するには、SQLコマンドまたはAlibaba Cloud DMSを使用する必要があります。ただし、インスタンスの他のアカウントに影響を与えずに、RDSコンソールまたはAPIを使用して、マスターアカウントのアクセス許可とパスワードをリセットできます。

次の図は、MySQL 5.5 / 5.6のアカウント管理モードを従来のモードからマスターモードにアップグレードする方法と、2つのモード間でデータベース/アカウントを作成および管理する方法の違いを示しています。



注意

MySQL 5.5/5.6 インスタンスの場合:

クラシックモードからマスターモードへのアップグレードのみサポートし、ロールバックはサポートしていません。

mysql.userテーブルとmysql.dbテーブルに直接アクセスすることはできませんが、mysql.user_viewとmysql.db_viewで既存のアカウントと権限を表示できます。

マスターアカウントを使用して他の共通アカウントのパスワードを変更することはできません。他の共通アカウントのパスワードを変更するには、マスタアカウントを削除して新しいアカウントを作成する必要があります。

MySQL 5.7インスタンスは、マスターモードのみをサポートします。

マスタアカウントが作成されると、インスタンスは1回再起動し、30秒間に一時的なネットワーク切断が発生します。適切なタイミングでアカウントを作成し、アプリケーションが切断された場合、その影響を防ぐためにアプリケーションが自動再接続をサポートしていることを確認してください。

手順

RDS コンソールにログインし、該当インスタンスを選択します。

[アカウント管理]をクリックし、[特権アカウントを作成する]をクリックします。



特権アカウントを作成する注意事項を確認します。[上記注意事項を理解し、特権アカウントを作成します]にチェックを入れて、[次へ]をクリックします。

特権アカウントの情報を入力し、[作成]をクリックします。

パラメータの説明：

データベースアカウント：アカウントは2～16文字の文字列です。小文字、数字、アンダースコア（_）を含める必要があります。アカウントは文字で始まり、文字または数字で終わらなければなりません。

パスワード：アカウントのパスワード。パスワードは8～32文字の文字列です。文字、数字、ハイフン（-）、およびアンダースコア（_）のいずれかを含む必要があります。

パスワードの再入力：パスワードを再入力して、パスワードが正しく入力されたことを確認します。

注意：マスターアカウントを作成した後、アカウント名を変更することはできませんが、パスワードは後でコンソールで変更できます。

ApsaraDB for RDS 接続方法

設定手順書は下記リンクから取得可能です。

- ApsaraDB for RDS 接続方法

インスタンスへの接続

RDSインスタンスへはMySQLクライアントを通じて接続することができます。本項ではMySQL-Frontクライアントを例に挙げ接続手順をご紹介します。

背景情報

MySQL の RDS は MySQL と完全に互換性があるため、同じ方法を使用してデータベースに接続することができます。ここでは、MySQL-Front クライアントを例として RDS インスタンスに接続します。他のクライアントを使用している場合は、この方法が表示されます。クライアント経由で RDS インスタンスに接続する場合は、イントラネットアドレスとインターネットアドレスの設定の次の情報を考慮してください。

クライアントが同じリージョンにある ECS にインストールされ、接続する RDS インスタンスのもと同じネットワークタイプの設定がインストールされている場合は、イントラネットアドレスを使用します。

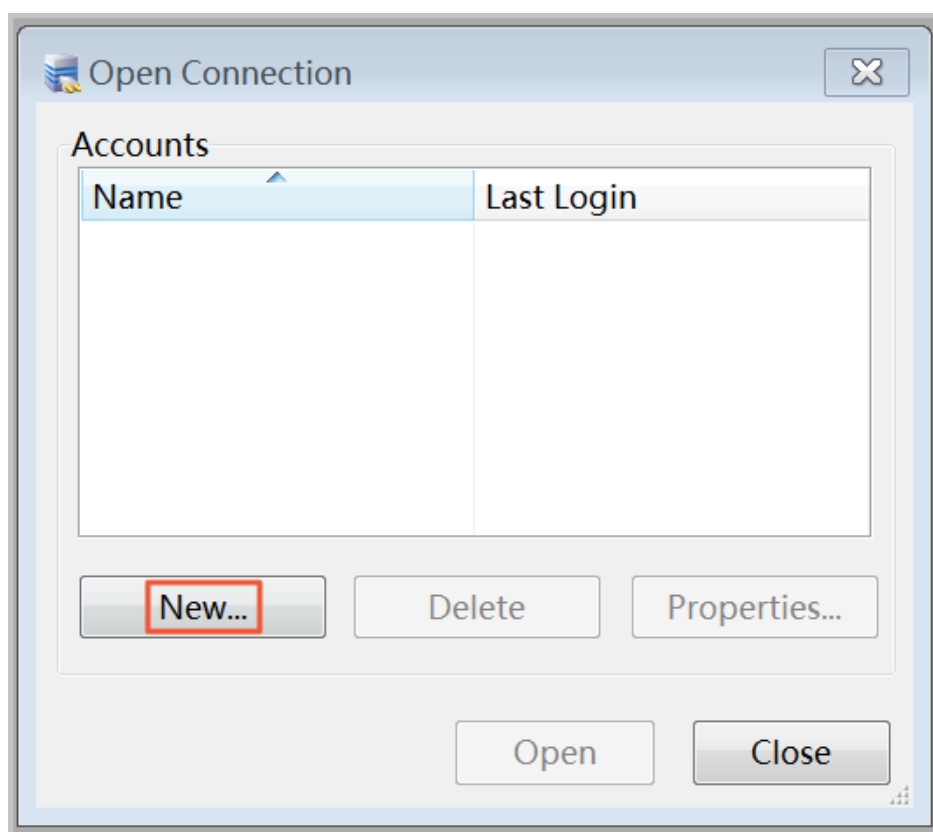
その他の場合はインターネットアドレスを使用してください。

操作手順

RDSインスタンスへアクセスするためのIPアドレスをRDSホワイトリストに追加します。ホワイトリストに関する詳細な情報は「[ホワイトリストの設定](#)」を参照してください。

MySQL-Frontクライアントを起動させます。

次の図のように**Open Connection**ウィンドウを開き**New**をクリックします。



次の図のようにRDSインスタンスに接続するために必要な情報を入力します。

The screenshot shows a standard Windows-style dialog box titled "Add Account". It is divided into three main sections. The first section, "Description", contains a label "Name:" followed by a text input field. The second section, "Connection", contains labels for "Host:", "Port:", and "Connection Type:". The "Host:" and "Port:" labels are each followed by a text input field. The "Port:" field currently displays "3306" and has up/down arrow buttons. The "Connection Type:" label is followed by a dropdown menu showing "Built-in". The third section, "Login Information", contains labels for "User:", "Password:", and "Database:". Each of these labels is followed by a text input field. The "Password:" field has a small icon to its right. At the bottom of the dialog are three buttons: "Help", "Ok", and "Cancel". Several labels in the dialog are highlighted with red rectangular boxes: "Name:", "Host:", "Port:", "User:", and "Password:".

パラメータの説明:

Description Name: MySQL-Frontがデータベースに接続する際に使用する名前です。もし名前が入力されていないときは、デフォルトでホスト名が使われます。

Host: 接続先アドレスです。クライアントがイントラネットを通じてRDSインスタンスに接続する場合、RDSインスタンスのイントラネットアドレスを入力してください。クライアントがインターネットを通じてRDSインスタンスに接続する場合、RDSインスタンスのインターネットアドレスを入力してください。次の操作手順は、どのようにしてRDSインスタンスの接続先アドレスとポートの情報を確認しているか示しています。

RDS コンソールにログインします。

インスタンスが所属するリージョンを選びます。

インスタンスIDをクリックして**基本情報**ページに進みます。

次の図にあるように**基本情報**ではインスタンスのインターネット / イントラネットアドレスとポート番号を見ることができます。

基本情報		ホワイトリストの設定	移行ゾーン	↑
インスタンス ID:		名前:		
インスタンスのリージョンとゾーン: Asia Pacific NE 1 (Japan)ゾーンA		インスタンスタイプ: 標準インスタンス (rds.status.category.HighAvailability)		
イントラネットアドレス:		内部ポート:	3306	
インターネットアドレス:		外部ポート:	3306	
インスタンスステータス				
インスタンスステータス: 実行中		支払い方法: 従量課金		

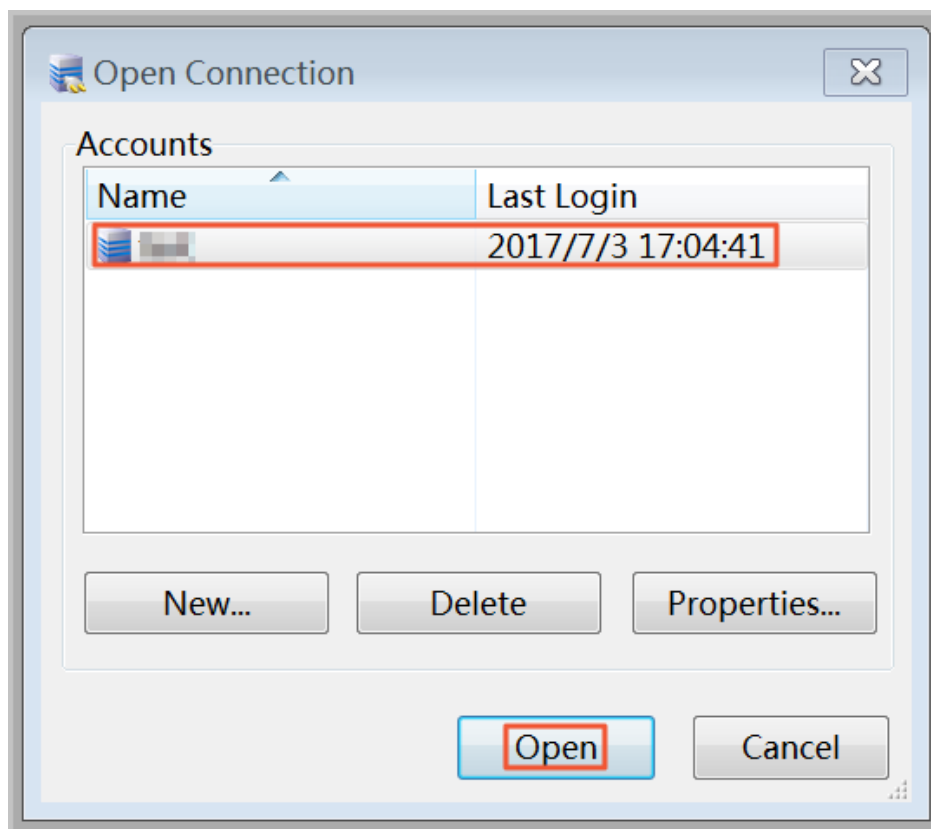
Port: RDSインスタンスのポート番号です。ユーザのアプリケーションがイントラネットでアクセスする場合、RDSインスタンスのイントラネット側のポート番号を入力してください。ユーザのアプリケーションがインターネットでアクセスする場合、RDSインスタンスのインターネット側のポート番号を入力してください。

User: RDSインスタンスへアクセスするためのアカウント名。

Password: RDSインスタンスへアクセスするためのパスワード。

OKをクリックします。

Open Connectionウインドウで, 作成した接続情報を選択し **Open**をクリックします。 次の図が示すように接続情報が正しければ、RDSインスタンスへの接続は成功します。



インスタンスのスケーリング

読み取り専用インスタンス

読み取り専用インスタンス

概要

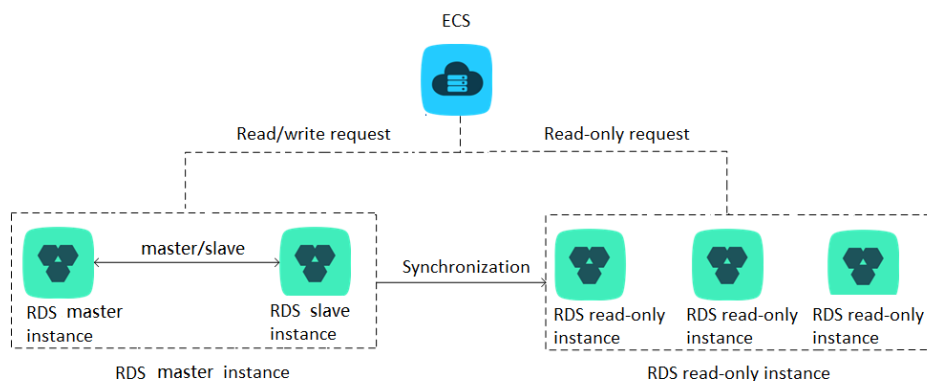
現在、ApsaraDB for MySQL 5.6 / 5.7のみが読み取り専用インスタンスをサポートしています。

少数の書き込み要求が必要なビジネスシナリオでは、データベースへの多数の読み取り要求があるため、単一の

インスタンスが読み取り圧力に耐えられず、主なビジネスに影響を及ぼすことさえあります。データベースの圧力を読み取り能力の弾性膨張を達成し、共有するためには、1つまたは複数の読み取り専用インスタンスを作成することができます。読み取り専用インスタンスを使用すると、データベースに対する大量の読み取り要求を満たすことができ、アプリケーションのスループットを向上させることができます。

読み取り専用インスタンスは単一ノードアーキテクチャ（スレーブノードなし）にあり、MySQLのネイティブレプリケーション機能を使用してマスターインスタンスの変更をすべての関連する読み取り専用インスタンスに同期させます。読み取り専用のインスタンスは、同じである必要がありますリージョンマスターインスタンスのものと、彼らは異なるゾーンにすることができます。

読み取り専用インスタンスの位置を表示するトポロジーを以下に示します。



注意

現在、次のApsaraDB for RDSバージョンのみが読み取り専用インスタンスをサポートしています：
MySQL 5.6およびMySQL 5.7（MySQL 5.7 Basic Editionを除く）

読み取り専用インスタンスは、スレーブノードを持たない単一ノードアーキテクチャにあります。

価格

読み取り専用インスタンスの請求方法は従量課金です。詳細は、[Pricing](#)を参照してください。

特徴

読み取り専用インスタンスは、次の機能を提供します。

読み取り専用インスタンスの仕様は、マスターインスタンスの仕様と異なる場合があります、いつでも変更することができ、弾力的なアップグレードやダウングレードを容易にすることができます。

読み取り専用のインスタンスは、1時間に測定された請求をサポートします。これはユーザーフレンドリーで費用対効果の高いものです。

読み取り専用インスタンスでは、アカウントやデータベースのメンテナンスは不要です。プライマリインスタンスを介して、アカウントとデータベースの両方が同期されます。

読み取り専用インスタンスは、独立したホワイトリスト構成をサポートします。

読み取り専用インスタンスは、システムパフォーマンスの監視をサポートします。

ディスク容量、IOPS、接続、CPU使用率、ネットワークトラフィックなど、最大20のシステムパフォーマンス監視ビューを使用できます。ユーザーは簡単にインスタンスの負荷を表示できます。

読み取り専用インスタンスは、最適化の提案を提供します。

ストレージエンジンチェック、プライマリキーチェック、大規模なテーブルチェック、過度のインデックス作成、欠落したインデックスチェックなどの最適化ツールがサポートされています。

制限

読み取り専用インスタンスには、次の使用制限があります。

1つのマスターインスタンスには、5つの読み取り専用インスタンスしか存在できません。

読み取り専用インスタンスは、バックアップ設定または一時バックアップをサポートしていません。

インスタンスリカバリ：

読み取り専用インスタンスは、バックアップファイルまたは任意の時点のバックアップによる一時インスタンスの作成をサポートしていません。

読み取り専用インスタンスは、バックアップセットを使用するインスタンスの上書きをサポートしていません。

読み取り専用インスタンスを作成した後、マスターインスタンスは、バックアップセットを使用してインスタンスを直接上書きすることによるデータ回復をサポートしません。

データを読み取り専用インスタンスに移行することはできません。

読み取り専用インスタンスは、データベースの作成または削除をサポートしていません。

読み取り専用インスタンスは、アカウントの作成または削除をサポートしていません。

読み取り専用インスタンスは、アカウントの認証またはアカウントパスワードの変更をサポートしていません。

読み取り専用インスタンスの作成

注意

現在、次のApsaraDB for RDSバージョンのみが読み取り専用インスタンスをサポートしています：
MySQL 5.6およびMySQL 5.7 (MySQL 5.7 Basic Editionを除く)

1 つのマスターインスタンスは、最大で 5 つの読み取り専用インスタンスを持つことができます。

読み取り専用インスタンスは追加料金の対象となり、請求方法は従量課金です。詳細な価格については、料金ページをご覧ください。

読み取り専用インスタンスは、そのマスターインスタンスのホワイトリスト情報を自動的にコピーしますが、読み取り専用インスタンスとマスターインスタンスのホワイトリストは互いに独立しています。読み取り専用インスタンスのホワイトリストを変更するには、ホワイトリストを設定を参照してください。

このドキュメントは MySQL 5.6 のみ適用されます。。

手順

RDS コンソールにログインします。

ターゲットインスタンスのリージョンを選択します。

ターゲットインスタンスの ID をクリックし、**基本情報** ページに入ります。

以下の図に示すように、**インスタンスタイプ別の数** のところ、**参照用インスタンスを追加** をクリックします。

インスタンスタイプ別の数	
読み取り専用 ?	一時
0	0
参照用インスタンスを追加	一時インスタンスを追加

購入ページで、読み取り専用インスタンスの設定を選択し、**今すぐ購入** をクリックします。

注意:

読み取り専用インスタンスとマスターインスタンスが同じ VPC にあることを推奨します。

データ同期に十分な I/O を確保するには、読み取り専用インスタンス（メモリー）の構成がマスター・インスタンスの構成よりも少なくないようにすることをお勧めします。

可用性を向上させるために、複数の読み取り専用インスタンスを購入することをお勧めします。

サービス利用規約とサービスレベル契約に同意する前にチェックボックスを選択し、**有効化** をクリックします。

読み取り専用インスタンスを作成した後、次の図に示すように、**インスタンスリスト** ページで表示できます。

インスタンス名	ステータス(すべて)	作成日時	インスタンスタイプ(すべて)
 [redacted]	作成中	2017-08-08 15:54	読み取り専用
 [redacted]	実行中	2017-08-02 14:00	通常

読み取り専用インスタンスの管理

RDSコンソールを使用して読み取り専用インスタンスを管理できます。読み取り専用インスタンスは、通常のインスタンスと同様に管理されます。実行可能な管理操作は、実際のインターフェースに従います。この記事では、読み取り専用インスタンスの管理インターフェースを入力する方法と読み取り専用インスタンスの同期の遅延を表示する方法について説明します。

読み取り専用インスタンスを介して直接管理インターフェースに入ります

RDS コンソールにログインします。

ターゲットの読み取り専用インスタンスのリージョンを選択します。

ターゲットの読み取り専用インスタンスのIDをクリックし、管理インターフェース画面に入ります。

注意: インスタンスリスト ページで、RでマークされたインスタンスIDは、次の図に示すように、読み取り専用インスタンスを示します。

インスタンス名	ステータス(すべて)	作成日時	インスタンスタイプ(すべて)
 [redacted]	作成中	2017-08-08 15:54	読み取り専用
 [redacted]	実行中	2017-08-02 14:00	通常

マスタインスタンスを介して管理インターフェースに入ります

RDS コンソールにログインします。

ターゲットマスターインスタンスが配置されているリージョンを選択します。

ターゲットマスターインスタンスのIDをクリックして、**基本情報** ページに入ります。

インスタンスタイプ別の数 の領域で、読み取り専用インスタンスの番号の上にマウスを置くと、次の図に示すようにインスタンスIDが表示されます。



ターゲットの読み取り専用インスタンスのIDをクリックして、その管理インターフェースに入ります。

読み取り専用インスタンスのデータ同期遅延を表示する

マスターインスタンスからのデータを同期するとき、読み取り専用インスタンスはしばらくの間遅延することがあります。次の図に示すように、読み取り専用インスタンスの**基本情報**ページで遅延を表示できます。

